

Topic of town

まちな話



牡鹿 港町のおいしさ発信 牡鹿鯨まつり



「牡鹿鯨まつり」が8月10日、ホエールタウンおしかで開催され、8,000人が来場しました。「牡鹿鯨まつり」は、鯨の供養と海難事故の犠牲者の慰霊、捕鯨によって栄えた町の発展を祝うために昭和28年から開始され、牡鹿地区を代表するお祭りとなっています。今年も、鯨霊と海難事故や震災の物故者の供養が行われた後、お祭りがスタート。数々の演目が披露され、総合司会の本間秋彦さん、阿部未来さんの進行により大いに盛り上がりを見せました。また、恒例の「つち鯨の炭火焼き」は長蛇の列となる人気ぶり、1,000食分が振る舞われ、鯨のおいしさを発信していました。

納涼花火大会は台風の影響により、8月18日に延期されましたが、2,000人が来場し、海上に輝く港町ならではの花火を堪能していました。

桃生 お巡りさんありがとう

親子で交通安全教室

秋の交通安全運動に先駆け、9月4日に桃生子育て支援センターキッズホームで交通安全教室がありました。0～4歳児7人と保護者が参加し、河北警察署の警察官と交流しながら、子どもの事故の特徴やチャイルドシートの大切さを学びました。パトカーの運転席では死角になる場所を確認し、道路を利用する皆の命が守られるよう安全への意識を高めました。



石巻 川開きの感動を1枚に

写真コンクールで表彰式

第101回石巻川開き祭り(8月2～4日)を撮影した写真コンクールの表彰式が9月7日、市役所で開かれました。花火大会、水上、陸上行事、子どもの部の4部門があり、総勢53人が161点を出品しました。このうち32点が入選し、審査委員長を務めた石巻出身の写真家、橋本照嵩さんはビデオメッセージで「撮影する場所が限られるなか、それぞれ作品から撮影者の工夫が見えた」と講評していました。



北上 大好評のかんたん味噌づくり

ほめられ「みそ講座」が開催

北上公民館交流ホールで8月26日、北上公民館の料理教室の一環である、ほめられ「みそ講座」が開催されました。当日は食楽ライフ講師のきくちひとみ氏を招き、26人の参加者が講師のデモンストレーションを参考に炊飯器やポットで完成できるシンプルなおいしさの味噌づくり体験や試食を行ったほか、即席の味噌玉づくりも紹介されました。



雄勝 帰省時期に夏祭り

花火でファイナーレ

「おがつ夏祭り」が8月11～14日、道の駅硯上の里おがつで開かれました。12日は台風5号の影響で中止となりましたが、日替わりのライブステージや焼きたてのホタテの販売、緑日コーナーといった企画で帰省客や行楽客をもてなしました。期間中の来場者は約4千人で、駐車場が一時的に満車になるなど大にぎわい。最終日には漁港から360発の花火が打ち上げられ、多くの人が夜空を見上げました。



河北 商店街で食べて遊んで

恒例の歩行者天国

飯野川商店街で8月24日、目抜き通りの約700mを車両通行止めにした「いいのかわ歩行者天国」が開かれました。地域の恒例行事で今回が50回目です。ちょうちんで彩られた会場には、地元商店の出店のほか射的や金魚すくいといった縁日ものがずらりと並び、ミニSLの乗車会に子どもたちが列を作りました。地域の子どもたちによる「葛西囃子(ばやし)」の披露もあり、催しを盛り上げました。



河南 8千個の灯籠きれい

盆恒例「和瀨夏祭り」

盆恒例の「和瀨夏祭り」が8月15日に和瀨水辺の楽校で行われ、昨年よりも1千個多い約8千個の陸上灯籠が河川敷を彩りました。会場では出店のほか、バンドや和太鼓の演奏などもあり、最後は約300発の打ち上げ花火で締めくくりました。地元の実行委員会が60年以上続けている先祖供養の祭りで、灯籠はもともと旧北上川に流していました。幻想的な風景が人を引きつけ、今年も多くの人々が夏の思い出を刻みました。

